

Ⅲ－２ 中学部の実践



Ⅲ－２ 中学部の実践

1. はじめに	39
2. 実践Ⅰ：仲間を巻き込んでひろがった学習活動の取り組み	40
3. 実践Ⅱ：キャリア発達支援の視点から自転車整備作業を振り返る	48
4. 実践Ⅲ：地域資源を活用して働く気持ちを引き出す取り組み	55
5. まとめ	65

Ⅲ— 2 中学部の実践

1. はじめに

中学部は、学齢期の出発点である小学部と社会への出口である高等部との間に位置し、両学部をつなぐ役割を担っている。児童生徒がその子らしく精一杯生きる力を育てることをめざす本校の教育において、中学部の3年間を、「集団の中で、他者を認めつつ、自己理解を深める時期」と捉え、学校生活全体を通して、人との関わりを大切にしながら学習活動を進めてきている。

昨年度から取り組んでいる「キャリア発達支援」の視点による研究の中で、中学部段階では特に、以下の観点を大切にしながら生徒の成長を支援することが重要であると考えた。

- ・仲間と協力して一つの活動に取り組み、成し遂げること
- ・自己の意思を表現し、主体性を持って活動すること
- ・社会生活や「働く」生活に対する関心と意欲を持つこと

そして、それらの達成を目指し、以下の点を意識して授業作りに取り組んできた。

- ・中学部全員で取り組み、達成感を感じられる活動の設定
- ・様々な活動における自己選択・自己決定・自己評価の場面の設定
- ・生徒たちの生活や学習活動につながる形での「職業・勤労」に関する学習の実施

これらの点は、本校が平成24年度まで取り組んできた「生徒一人一人の自己実現につながる授業づくり」の研究の中でも重要視されてきたものであり、その研究成果を引き継ぎ、生徒の思いや願いを丁寧に読み取り、内面の成長を目指して、キャリア発達の支援につながる活動を進めた。

今回、実践研究として中学部での3つの授業を取り上げた。実践Ⅰは、一つの学習グループで始まった活動が、中学部全体を巻き込んで広がり、楽しいお祭りとなっていた生活単元学習の取り組みである。実践Ⅱは、作業学習「自転車整備」の3年間にわたる授業の総括である。自らの活動が、学部行事や他学部の生徒の学習にも役立つことにやりがいを感じ、意欲を持って作業に取り組む生徒の姿が取り上げられている。実践Ⅲは、校外での就業体験を控えた3年生が、学部内でカフェを開いて接客の体験をする中で、仕事の楽しさや働く上で大切なことを学んでいった事例である。

3つの実践は、学習集団、教科・領域、実施期間などは様々であるが、どれも、中学部として大切にしてきた上述の観点を意識して取り組んだ活動である。それぞれの実践の根底に流れる我々教師の姿勢と、具体的な支援のあり方、生徒の変容について考察していきたい。

<学習集団について>

本校中学部では、学級集団（学年毎）とは別に、3学年縦割りの学習集団を編成している。この集団での活動を「グループ学習」とよび、作業学習、美術、生活単元学習Ⅱの授業を行っている。（生活単元学習Ⅰは、学級集団で行っている）

<実践の実施年度について>

実践ⅠはH25年度、実践ⅡはH23～25年度、実践ⅢはH25年度実施の授業であるが、各実践におけるキャリア教育の視点は、今年度に引き継がれている。本紀要においては、単元が完結し、授業の反省も終了したという観点から、昨年度までの実践を取り上げ、掲載した。

2. 実践Ⅰ 仲間を巻き込んでひろがった学習活動の取り組み

～ロケットグループ 生活単元学習「いもにまつりをしよう！」～

実践において大事にした視点

この取り組みをするにあたり、キャリア教育の視点として次のことを大事にした。

- ・仲間とともに活動し、成就感や達成感を味わうこと
- ・自分で考える、選ぶ、決める経験を重ねること
- ・目標を立てて活動し、自己評価したり他者評価を受けたりすること

(1) はじめに

① 生徒の実態

本グループは、1年生2名、2年生3名、3年生1名の計6名で構成されている。活動面での生徒の実態は、文字の読み書きができ、リーダー的役割を担うことができる生徒、活動の説明や提示に注目でき、選択の意思を伝えたり積極的に取り組んだりできる生徒、教師の見守りや促しの支援で活動に参加できる生徒など様々である。

② 「いもにまつり」の取り組みにいたる経緯

1学期の「ロケットまつり」の取り組み

～仲間と取り組む楽しさの体験～

縦割り学習グループの、「ロケットグループ」という名前にちなんで、1学期の生活単元学習では「ロケットをつくって飛ばそう」という単元に取り組んだ。水と空気の圧力で飛ばすタイプの、ペットボトルを素材にしたロケットを作って飛ばす学習活動である。初回は思うほど遠くへ飛ばなかったため、ペットボトルの種類やノーズの重さ、羽の形や枚数を改良して、2回目の飛行に挑んだ。楽しそうに飛ばす様子をたまたま見ていた他グループの子どもたちから、「ぼくもやりたい!」「作りたい!」という声が聞かれたので、そのことを授業で伝えた結果、話し合いで「学部のみんなで、『ロケットまつり』をしよう」ということに発展した。

他グループへ、『ロケットまつり』への誘いの手紙を書き、ロケットの作り方の手順表を作って届けに行くと、どのグループも参加することを快諾してくれて、『ロケットまつり』のイベントが動きだした。グループのメンバーで、当日の司会、記録係、表彰係の分担を話し合い、看板や成績表、表彰状、メダルを作成するなど、企画者としての学習活動に取り組んでいった。

当日は晴れ渡った青空の下、運動場で、生徒が思い思いの愛称をつけた自分のロケットを2回ずつ発射した。50m越えの成績がいくつも出て、大盛り上がりになった。ロケットグループの子どもたちは、進行や距離の測定、記録の記入やメダル贈呈など、それぞれの仕事を自覚して役割をしっかりと果たし、大変だったけれど楽しかったという達成感や満足感を味わうことができた取り組みとなった。



「成績を発表します」



「ロケット発射!」

③ 「いもにまつり」の取り組みについて

1学期までの学習活動を通して、好奇心旺盛でいろいろなことに挑戦する良さをもっており、一人一人の持ち味を生かして活動に意欲的に取り組める子どもたちであることが感じられた。

このメンバーでの次の学習活動として、他グループを巻き込んで学習を発展的に展開していく活動に再度取り組むことを計画した。「ロケットまつり」での子どもたちの学びを生かして、体験を積み上げていきたいと考えたのである。内容は栽培活動につながるものにした。

グループの栽培活動として1学期に「好きな野菜を畑で育てよう」という学習に取り組んだ。教科書を参考に栽培する野菜を考えて話し合い、ニンジン、ジャガイモなどに決めた。どの生徒も自分たちが育てる野菜に愛着を持ち、進んで畑作業や世話を行い、収穫を喜ぶことができた。

2学期は収穫保存しているニンジンとジャガイモを使った調理学習を計画した。食品の好みや食べる量はそれぞれであるが、「作って食べる」学習の経験は、どの生徒もたくさん積み重ねてきているという実態を踏まえた学習でもある。単に自分たちで作って食べる活動ではなく、献立や作り方を調べて話し合い、手順表を見て調理に取り組み、その振り返りを行う。その中で、他グループの友だちや先生にも味わってもらう機会として、一緒に作って食べる収穫祭的な活動に発展させていくことを考え、「いもにまつり」を行うことにした。

④ 指導の観点および期待される効果

調べ学習や話し合い、調理においては、各生徒の得意なことやチャレンジさせたいことを意識した役割分担を促す。それぞれが自分のめあてを考え、それを意識して活動に取り組めるよう働きかけることで、自分や友だちの様子が振り返りやすくなるを考える。振り返りを通して、次の課題やめあてに気づいて、さらに主体的に活動できるようになることを期待する。

また、「いもにまつり」を自分たちで相談して企画していく際に、考えたり決めたりすることがたくさんあることに気づくような発問を意図的に投げかける。他グループに伝えるための手立てが必要なことや、喜んでもらえるためにどのような工夫をするとよいかなどを考え、友だちと協力して取り組んでいくことが活動の成功につながる、ということ学ぶ機会にもなると考える。

おいしく作れることをめざして調理を繰り返すことで、調理に関する知識の広がりや、野菜を切ったり味付けしたりする技能の向上も図れると考え、その発表の機会として、単元の最後にパフォーマンステストも設定したい。その後の自己評価・他者評価によって自分たちの頑張りを再認識できると考える。

何より、みんなで楽しくおいしい時間を共有できたという喜びを味わい、仲間と一緒に一つのことを成し遂げたという達成感は、また別の活動に取り組む際の意欲や自信となると思われる。

(2) 取り組みの概要

① 単元名 「いもにまつりをしよう！」

② 単元の目標




- ・自分の役割や自分で決めた目標を意識して活動に主体的に取り組む 【関心・意欲・態度】
- ・活動を振り返って、気をつけたことやできるようになったことを自己評価できる 【思考・判断・表現】
- ・友だちと協力して調理をしたりプログラムを作ったりできる 【技能】
- ・見通しを持って調理や活動の準備に取り組む 【知識・理解】



③ 指導計画 (総時数 24 時)


- 第一次 ニンジン、ジャガイモを食べてみよう 2 時
- 第二次 「いもにまつり」の準備をしよう 14 時
- ・「いもにまつり」をしよう
 - ・おいしいものに作りをしよう Part 1
 - ・おいしいものに作りをしよう Part 2
 - ・いもに会議をしよう 第 1 回 (いもにまつりの相談)
 - ・いもに会議をしよう 第 2 回 (招待状・プログラム作り)
 - ・いもに会議をしよう 第 3 回 (幟作り)
 - ・いもに会議をしよう 第 4 回 (調理分担・目標の確認) <前日>
- 第三次 「ぐつぐつ ほくほく いもにまつり」をしよう . . . 5 時 <当日>
- 第四次 「いもにまつり」を振り返ろう 3 時
- ・いもにまつりを振り返ろう
 - ・パフォーマンステストをしよう
 - ・お礼の手紙を書こう

④ 主な学習活動 および 指導の観点と手立て

前述の指導計画の授業の中から、第二次と第四次の一部について下記に記述する。

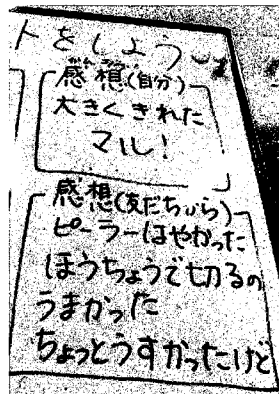
主な学習活動【第二次】	指導の観点と手立て
<p><いもに会議をしよう 第 1 回></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いもにまつり」の日程を知り、場所や内容、招待したい人を決める ・当日は給食を止めること、他グループにも 1 品ずつ作ってもらうことを話し合っ て決める ・他グループへの手紙の内容や招待状の文章 を考える 「いもにまつり」へのお誘い おにぎりやデザート作りのお願 い 「おいしいものを 食べましょう」 ・文章を分担して書く →  ・各グループへ手紙を 持っていく担当を決め、伝え方を考えて、 渡し方を練習する ・各グループに お願いに行く →  	<ul style="list-style-type: none"> ・「いもにまつり」に向けて取り組むことがいろ いろあることに気付くようにする →何を決めなくてはならないかを質問として 投げかける ・他グループへ依頼する必要性に気付くように する →何を伝えなくてはならないかを質問として 投げかける →内容を確認し、例文を板書して示す ・個に応じて書く内容の分担や書き方の配慮を する ・手紙の渡し方について考えられるようにする →どんな伝え方をするのか質問し、具体的な 言葉や態度をイメージできるようにする 

<ul style="list-style-type: none"> ・要件を伝えられたかを報告する <p><いもに会議をしよう 第2回></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いもにまつり」について質問に訪れた他グループのメンバーの話を聞いて答える ・招待したい人を思い出して確認する ・招待状の宛名を分担して書く ・届ける練習を行う  <ul style="list-style-type: none"> ・一人ずつ招待者へ招待状を届けに行く → ・要件を伝えられたかを報告する ・会場に掲示するプログラムを協力して作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価できるようにする →練習通りにできたか尋ねる ・質問に対して、考えて答えられるようにする →必要に応じて、質問をわかりやすく伝える ・招待状を渡す必要性に気付くようにする →招待者名を板書する ・手紙の渡し方について考えられるようにする →どんな伝え方をするのか質問し、具体的な言葉や態度をイメージできるようにする ・自己評価できるようにする →練習通りにできたか尋ねる ・プログラムの必要性に気付くようにする →個に応じた作業分担ができるよう配慮する
--	---

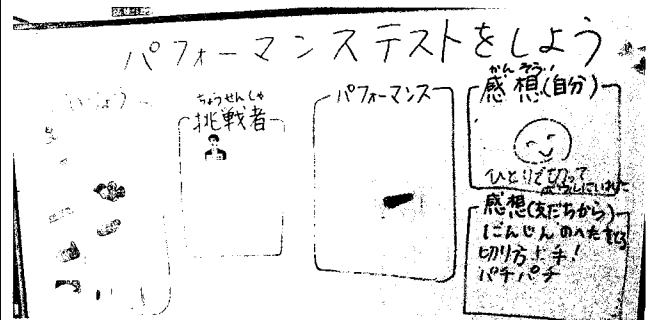
主な学習活動【第四次】	指導の観点と手立て
<p><いもにまつりを振り返ろう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の目標を確かめる ・ビデオを見て当日の様子を思い出す ・目標通りにできたか振り返る ・ワークシートの「いもにつくり」「いもにまつり」の欄に自分が頑張ったことを記入する  <p><パフォーマンステストをしよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が発表したい調理を披露し合う「パフォーマンステスト」をすることを決める ・一人ずつ自信がある調理を選び、みんなの前でパフォーマンスを発表する ・友だちの発表の様子を見守る 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの目標が達成できたか自己評価を行えるようにする →仕事分担表、手順表、プログラム、写真やビデオを提示して思い出しやすくする →調理と役割活動の2点に関して振り返られるようなワークシートを準備する →言葉での表現が難しい生徒には、表情や様子から代弁したり、記入するための支援を行ったりする ・調理の積み重ねの成果を発表し合い、自分や友だちの頑張りを認め合えるようにする →「パフォーマンステスト」を提案する →野菜や調理器具をいろいろ準備し、自分で決めたパフォーマンスに取り組めるようにする →ビデオカメラで発表者の手元を撮り、大きい映像で見やすくする



- ・自分の発表の感想を言う
友だちの感想を聴く
- ・友だちの発表の感想を伝える
- ・頑張っていたことへ拍手を送る
- ・板書を見て、それぞれの取り組みをあらためて振り返る



- ・感想を発表し合うことで、自己評価や他者評価の機会とする
→自分なりの表現で発表するよう促したり、教師の感想も伝えたりする
- 自分や友だちの感想を板書して、本人に成果をフィードバックしやすくする



⑤ 生徒の様子 および 変容

ア. 調理活動では

自分のしたい活動や調理したい野菜を選んで、どの子も気持ちを集中させて取り組んでいた。調理の度に同じ野菜を選んで皮をむいたり切ったりすることを繰り返した子は、声かけや補助が徐々に少なくともよくなり、初めての野菜に一人で取り組んだ生徒は、少しずつ手際が良くなっていくなど、調理の技術面にはどの子も向上が見られた。野菜の切り方を工夫し、調味料の種類や量を

調整していくことで、だんだんおいしくなっていくのがわかり、いもにまつりに向けての自信が増したようだ。また、試食を繰り返す間に、汁物が苦手な生徒が少しではあるが、いも煮を味わえるようになったという想定していなかった成果もあった。

イ. いもにまつりでは

当日には、いつもの数倍もの量の調理に意欲満々で取り組んだ。涙を流しながらネギを最後まで切る、見本通りに野菜を大きめに切る、手際よくキノコをほぐす、たくさんのコンニャクをスプーンで同じ大きさに根気よくちぎるなど、それぞれの目標を意識しながら取り組む姿が見られ



「ニンジン切りは
まかせて！」



「ジャガイモは
大きめに切ろう」

た。雰囲気盛り上げるために、3個の七輪を使ったが、火の状態を見てうちわであおぐという初めての経験に楽しそうであった。

司会や挨拶の生徒は、それぞれ自分の役割をよく果たしていた。1学期のロケットまつりの司会では緊張して言葉が出なかった生徒は、友だちとペアで取り組むことが心強かったのか、しっかり進行していた。別の司会担当の生徒は、声は小さめだったが、事前に司会の言葉を教師と一緒に確認して臨み、「よく頑張った」と自己評価していた。後半にはいも煮のカレー味への変更という“お楽しみ”があり、その担当の生徒は嬉々としてルーを鍋に入れてかき混ぜていた。おかわりしたい人がいると、自分からお碗を受け取って盛り付けに行ったり、ペットボトルのお茶をコップに注いでお客さんに配ったりする生徒もいて、生き生きと嬉しそうに活動している主体的な姿がとても印象的であった。

招待した方を囲んで、「おいしいね〜」「あったかいね」「これ、誰が作ったの?」と、会話も弾み、みんなで心温まるおいしいひとときを過ごした。



「はい、どうぞ」 七輪でぐつぐつ



みんなでワイワイ
いもにまつり

ウ. 振り返りでは

振り返りでは、いもにまつりが成功に終わったことをどの子も実感できたようで、ワークシートには、目標に向けて頑張ったことを書いていた。パフォーマンステストでは、これまでに繰り返し取り組んだ野菜の調理を披露したり、初めての野菜にチャレンジしたりと、課題の自己選択の視点はさまざまであった。友だちの前で発表して、自分のでき具合に満面の笑顔を見せたり、みんなに「早くできたね」と褒められてジャンプして喜んだり、友だちの意外な上手さに感心して拍手を送ったりするなど、一人一人が自分の決めた課題に真剣に取り組み、また友だちの様子もしっかり見ていたことがうかがわれた。教師がパフォーマンスをしている生徒の手元をビデオカメラで撮影していると、「自分も映してみたい」と言ってカメラを手に取り、友だちの様子を撮影し始めた生徒がいて、その主体的な様子に感動した。

エ. 他グループの生徒の様子

他グループの生徒は、いもにまつりへの誘いやメニューの分担の依頼を快く引き受けてくれた。大いに乗り気で、そのための話し合いも意欲的に行った。おにぎり作りを頼まれたグループは、どれだけの米を炊けばよいのかわからないということで、自分たちでロケットグループに質問にいった。しかし、何人分必要かはわかって、炊くべき量はわからず、米の〇合という単位も初めて知るのであった。米とぎやおにぎり作りも初めての経験である。3升ものご飯は大量で、握っても握っても終わらず、疲れもみえてきたが、“みんなのために”という気持ちで最後まで握って仕上げた。



お米をといて

ラップで握る

いも煮ができるまでの間に、玄関ホールに机やいすを運んで協力して会場設営も頑張った。それぞれが作ったおにぎりやフルーツヨーグルトを誇らしげに持ち寄り、お客さんや友だちがおいしそうに食べるのを見てとても嬉しそうであった。

新たな体験や知識の獲得、自分たちで引き受けたことに対する責任感、協力して成し遂げた達成感など、仲間との楽しい活動を通して得るものは少なくなかったようで、「頑張った」「また、やりたい！」などの声がいくつも聞かれた。



フルーツヨーグルト作り

(3) 成果と課題

① 中学部キャリア教育の視点からの評価

中学部では、仲間集団での活動を通して、他者を認識し、自己を認める育ちが期待できると考えている。日頃から、縦割りグループでの学習場面がある中で、1、2年生にとっては3年生という先輩モデルがおり、2、3年生にとっては、後輩の1年生に範を示す場面ができるという相互作用が機能している。また、中学部全員での学習活動も多いため、「みんなで一緒に活動することの楽しさ」が、生徒の内面に定着していることが、「巻き込み、巻きこまれる」という活動にワクワクした気持ちで取り組む基盤となっていると考えられる。「仲間とともに活動し、**達成感を味わう**」ことをめざすために、このような、一つのグループの企画や提案により、みんなでの活動にひろげていくという取り組みは、生徒にとって、大変有効であると思われ、今後も継続していきたいスタイルである。

また、「自分で考える、選ぶ、決める」ということは、生活の様々な場面で求められることである。この実践においても、そのような場面を自分の意思の具体的な表現の機会として意図的に設定し、生徒の考えを引き出ししたり、思いを伝え合ったりする働きかけを意識して行っている。

さらに、日々の教育実践の中で、中学部が重要と考えて取り組んでいることに、「**目標を立てて評価する**」ことがある。単元を通した目標、一つ一つの学習活動におけるそれぞれのめあてを生徒自身が考えて、それを意識しながら活動に取り組むこと、活動後にその目標の観点から振り返りを行うことは、授業において欠かせないことであると考え。この実践においては、このような自己評価、他者評価の場面がいろいろあり、それを丁寧に繰り返して積み上げてきた。

② 教師の指導の観点からの評価および考察

生徒への指導の主な手立てと、その有効性については以下のようなものである。

- ・映像や写真を活用する → 生徒が活動のイメージをもちやすくなった
- ・意図的な質問を投げかける → 生徒が考えたり行動したりするための必然性を作りだせた
- ・活動の方向性を示唆する → 活動の流れに沿った教師からの提案で活動の見通しが持てた
- ・自己選択、自己決定の場面を設定する → 生徒の意思の尊重により主体的な活動を促せた
- ・教師も「やろう！」という気持ちを示す → 生徒の活動への期待を盛り上げられた
- ・グループで協力する意識を喚起する → 役割分担においては、自分の希望だけでなく、友だちのことや状況を考慮して決めることを促せた
- ・具体的な表現を引き出す → 目標を立てる際には、「何を」「どのように」するのかを問いかけることで、その生徒の思いをより具体的に表現できた

- ・表現を深められるように働きかける → 評価において、「楽しかった」「頑張った」といった通りいっぺんの言葉には、「何が」「どんなふうに」と問いかけることで、自分の言葉での表現を引き出せた。個に応じて、表現が難しそうなことを言語化したり、本人の思いを読み取って代弁したりする支援を行ったことで、どの生徒も振り返りがしやすくなった
- ・教師の評価も伝える → 個々の自己評価を、より妥当な評価に近づけることができた
- ・写真やワークシートなどの掲示を行う → 活動の取り組みが学部全員にわかりやすく、掲示をながめている生徒の姿が多く見られた

これらの手立ては、生徒が学習活動の見通しやイメージを持ち、自分で考えたり主体的に取り組んだりしていくために、有効であったと考えている。

③ 活動を発展させるための教師の連携

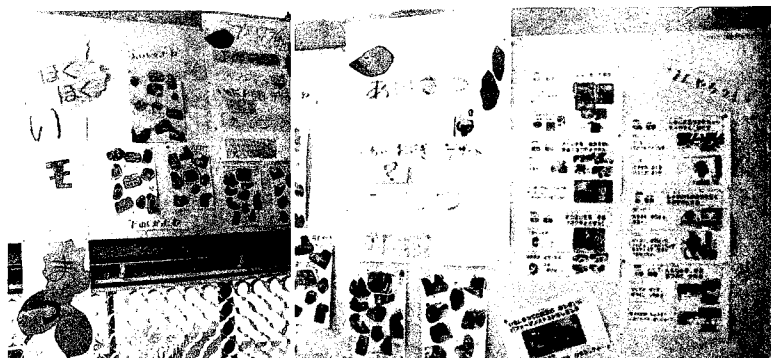
仲間を巻き込んで展開する学習活動には、他グループの協力が欠かせない。教師は、“生徒にとっては急にもちあがった活動であり、突然の参加依頼であり、想定していない協力要請であること”を意図する。その背景には教師間の密な連携が求められる。単元を構成する前に、どのような内容で行い、どのグループが核となるのかなど、十分な話し合いを行っている。その話し合いの中で、より魅力的な案や工夫が提案されて、教師の意気も上がってくる。教師自身もワクワクし、子どもたちと期待感を共有することは、とても大事である。

また、生徒の活動の様子を機会あるごとに情報交換して共有した。いもにまつりを企画したロケットグループだけでなく、誘われた他グループの生徒にとっても学びがあることを確かめ合いながら指導していくことで、より連帯感のある充実した取り組みができた。

「仲間とともに」を大事にした学習活動は、生徒同士の関わり合いや、それぞれの自己有用感や自己効力感という内面の育ちにつながるという共通意識があってこそその実践であると考えている。

④ 今後の課題

このような取り組みは、生徒の思いを読み取り、あるいはその気持ちを引き出して、計画し展開していくものである。この実践でも、一人の生徒の「〇〇さんにも食べさせてあげたい」という言葉を教師が拾い上げられたことが、その後の取り組みの意欲につながった。まさに、本校で積み重ねてきた“目の前の子どもから出発する”ことを具現化した実践である。つまり、生徒との関わり合いをある程度積み重ねてきた上でようやく可能になるといえる。言い換えれば、年度当初からこのような計画をすることには難しさがある。教師が話し合いを持ち、それぞれが担当する学習活動を調整しつつ検討していくには、年度当初の指導計画に「仲間を巻き込んで広げる活動」という枠を設定していくことが必要となる。具体的な活動内容やどの学習集団がどのような役割を担うかなどは後から決まる、という柔軟性がもたせられるかどうかは課題となる。



いもにまつりの掲示

「活動の経過がみんなに伝わるように！
頑張ったことを振り返られるように！」

3. 実践Ⅱ キャリア発達支援の視点から自転車整備作業を振り返る

～作業学習 自転車整備グループの3年間の取り組み～

(1) はじめに

本校中学部では、春には運動会で自転車を使った演技をしたり、秋にはサイクリング遠足にでかけたりしており、中学部の全生徒が自転車を使う機会が多くある。平成20年度までは、その際の自転車整備は教師が行っていたが、平成21年度からは、これらの行事の前にだけ、作業学習の一つの単元としてパンク修理に取り組むようにした。単発的な取り組みであったが、自転車整備に生徒自身が取り組むことで、その行事へのモチベーションを高めることができ、より達成感や成就感を味わうことができていた。また、本校には、自転車が約40台あり、休み時間には小学部の児童から高等部の生徒までグラウンドで自転車に乗って遊ぶ姿が多くみられる。自分たちが整備した自転車が快適に使われる様子を見ることで自分がやったことが人の役になっていると感じられ、自己肯定感や自己有用感につながる。作業に対しての「意味づけ」「価値づけ」にもなり、作業に取り組むより強い意欲につながるのではないかと考えた。そこで、平成23年度からは年間を通した自転車整備の作業種を設定し、生徒がより主体的に取り組めるよう、整備内容も含め考えていくことにした。



運動会 中学部団体演技
「サイクリングだ、ヤッホー」

(2) 自己有用感を育むための取り組み（平成23年度）

① 「自転車整備」作業の設定にあたって

ア. 生徒の実態

平成23年度から年間を通した自転車整備の作業に取り組むようになった。対象グループは、1年生男子1名、女子1名、3年生男子1名、女子2名の計5名で構成されている。どの生徒も言語での説明や指示がほぼ理解でき、話し合ったり協力し合ったりして活動に取り組むことができる。授業だけでなく、普段の生活でも教師や友だちとのやりとりを楽しめる生徒たちである。自転車整備に関しては、これまでに授業でパンク修理をしたことがあり作業手順が大体わかっている生徒から、工具に触れることも初めてという生徒まで様々であった。

イ. 指導にあたって

実際の指導にあたっては、以下のことを大切に学習活動を展開し、支援するようにした。

- ・ 友だちとの関わりを大切に活動を取り入れる
- ・ 自分たちで気づける、自分たちで作業が進められるための工夫をする
- ・ 技術面の「できた」「できない」だけでなく、しようとしている姿も評価する
- ・ この活動でめざす目的や意義を繰り返し生徒に伝えることを心がける

具体的には、協力して作業に取り組みやすいようグループに分かれて作業することにし、また、工具は使いやすく棚に整理してラベルを貼り、友だち同士で「〇〇取ってきて。」などの依頼をしやすくした。自分たちだけで作業を進めていけるように見やすい手順表を作成し、作業の様子をできるだけ見守るようにした。その上で、個々に応じた機会を捉えた支援を心がけてきた。

② 指導計画

* 指導時間は毎週火曜日の2～4時限目（基本）

1 学期

自転車整備①

- ・運動会演技に向けたパンク修理、チェーン給油など
- ・パンク修理、チェーン給油、破損部品の取り外しなど

2 学期

自転車整備②

- ・サイクリング遠足に向けたタイヤのチューブ交換など
- ・全体的なメンテナンス

3 学期

自転車整備③

- ・全体的なメンテナンス

③ 平成 23 年度のまとめ

整備が終わった自転車は、誰でも乗って遊べるように体育館横に並べている。本グループのどの生徒も、授業以外でそこを通る時には自転車を気にしてタイヤの空気チェックをしている。そして、パンクしているとわかると一人の生徒は、「どうすればいい?」と聞き、その自転車を作業室に運び入れている。“自転車修理は自分たちの仕事。俺に任せてくれ!”といった頼もしさが感じられようになった。

また、自分たちが直した自転車を小学部児童が嬉しそうに乗る様子を見て、「よかったね。」と言いかうことや、たくさんの教員から「ありがとう。」の言葉をかけてもらうこともそれぞれの自信や意欲につながり、

“自分のためだけでなく、学校の誰かのために”という気持ちが自然に育まれているのかもしれない。サイクリングに向けてクラスの友だちの自転車整備を頼まれた男子生徒は、ギリギリまでかかってやっと仕上げることができたが、とても誇らしげに、「〇〇くんの自転車、直しといたから。」と伝えていた姿が印象的であった。平成 23 年度の取り組みから、自己肯定感を高めることや、何かの役に立っているなどの自己有用感が、次への取り組みの意欲につながると考えられる。



作業手順表で確認する生徒

(3) 生徒が主体的に作業を進め、自己評価できる取り組み（平成 24 年度）

① 「自転車整備」作業の設定にあたって

ア. 生徒の実態

平成 24 年度の対象グループは、1 年生男子 1 名、2 年生男子 2 名、3 年生男子 2 名の計 5 名で構成されている。5 名とも簡単な言語での説明や指示がほぼ理解できるものの、言葉によるやや複雑な説明が理解できなかつたり、自分の意思や質問などを言葉で伝えることが苦手だったりする生徒もいる。手先や体全体を使った作業については、あまり器用でない分野はあるものの、どの生徒もスムーズに取り組むことができる。

自転車整備については、2 年生男子 1 名のみ、昨年度もこの作業班に所属しており、他の 4 名は今年度初めてこの作業に取り組んだが、4 名とも、機械類や工具を使った活動に興味を持ち、作業学習を始めることができた。

イ. 指導にあたって





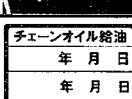

今年度は昨年度の取り組みに加えて以下のことを大切に学習活動を展開し、支援するようにした。

- ・教師の声かけを極力減らす
- ・友だち同士で声をかけ合うように促す
- ・生徒自身が考え、わからないときは教師に聞きに来るようにする

これまでの自転車整備では「パンクした」や「ブレーキが壊れた」といった、故障してからの整備が中心であったが、本年度からの修理作業に加えて新たな作業として、チェーンオイルの給油と、ブレーキ、タイヤの空気圧などの基礎的な点検を定期的に行うことにした。そのことにより、より快適に自転車を使うための予防的な整備にも取り組むことができると考えた。

実際の指導では自転車整備は、日頃の生活では触れることの少ない専門的な工具や、電動工具などを使う機会が多いため、まず「タイヤレバー」や「エアコンプレッサー」などの名称を、写真入りカードで提示し、また、安全に作業するための注意点を繰り返し説明した。また、分解手順や、作業手順の工程は、数が多い上に、自転車の種類により多岐にわたる為、どうしても教師が「ここをこうして、ああして」などと、声かけによる指示が多くなりがちである。そこで、視覚的に手順がわかりやすい表（写真入り）を掲示し、生徒たちが自分たちで工程を把握できるようにした。さらに、年度途中からは、点検手順を一覧にした点検表や、整備時期や整備状況が一目でわかるステッカーなどを使って、声かけの指示がなくても、自

表Ⅲ－２－１ 自転車点検表

点検箇所	項目	◎ ×
1 前輪タイヤ	 手で回して軽く回るか	
2 後輪タイヤ	 手で回して軽く回るか	
3 ハンドル	 曲がり、ガタはないか	
4 ブレーキ	 ブレーキはきくか	
5 チェーン	 ステッカーが貼ってあるか	
6 空気圧	 所定の空気圧か	

分たちで考え、自分たちで進んで活動できるような指導を心がけた。

また、毎回の作業に際して、生徒一人一人の授業のめあてを、全員の前で板書して確認し、自分のめあてを作業を通して意識できるようにするとともに、一緒に作業を進める友だちのめあても知った上で授業に臨むようにした。そして、授業後の振り返りでは、生徒に応じて、自分の言葉での自己評価、教師からの評価、友だちからの評価を丁寧に行うようにした。さらに、次の授業への課題や本人の意欲も交えて黒板に記録してその内容を残し、次時は、その板書を振り返りながら授業を始めるようにした。

② 指導計画

第一次（1学期）

自転車整備①

- ・自転車整備のガイダンスと修理体験
- ・運動会の自転車演技に向けたパンク修理など

第二次（2学期）

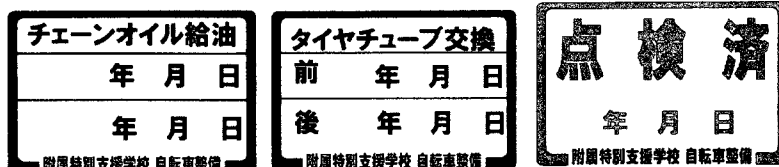
自転車整備②

- ・サイクリング遠足に向けたパンク修理など
- ・定期点検とチェーンオイル給油

第三次（3学期）

自転車整備③

- ・定期点検とチェーンオイル給油
- ・分解整備（部品のサビ取りと塗装）



作業完了ステッカー

③ 平成24年度のまとめ

本年度の授業のポイントとして、点検表や整備完了ステッカーを導入したことにより、生徒たちは、主体的に作業を進めることができた。作業の必要な自転車や点検の次の手順が自分たちでわかるので、教師の指示を求める回数が減り、生徒同士が声をかけ合ったり、助け合って作業に取り組む場面が増えていった。本実践においては、自転車整備の工程を工夫することで友だち同士の協力を促すことができたといえる。

点検整備の作業においては、一人がペダルを回してもう一人がブレーキレバーを握り、ブレーキの効きをチェックするというように、2人が協調して動くことにより、効率よく作業が進み、生徒自身も、協力する効果を実感しやすかったようであった。友だちとの作業の分担を意識しながら、無理なく協同作業に取り組むことができたといえる。

また、授業のめあての設定と評価を生徒自身で行った。この自転車整備作業において同じ作業工程を繰り返すことにより、生徒が自分の得意不得意な分野を自覚した上での技術の上達を実感しやすく、その変化に基づいた自己評価や次の時間のめあての設定が行えるようになっていった。授業の評価において、当初は「う～ん、だめだった…」と覇気のない自己評価をしていた生徒が、徐々に「声かけは、まあまあできたけど、2人でタイヤ外しはまだまだ難しかったので、次回は、力を合わせられるように気をつけます」というような、さらなる上達を目指した、少し厳しめの具体的な評価をするようになっていった。また、めあての設定においても、年度当初は、「友だち

に声かけをする」というような大まかなめあてを立てていた生徒が大半であったが、繰り返しの作業の中で、相手の動きやすさなどにも意識が及ぶようになり、「〇〇さんが点検しやすいように補助をする」というめあても立てるようになっていった。

(4) 協力する態度を育み、友だちを意識した他者評価ができる取り組み（平成 25 年度）

① 「自転車整備」作業の設定にあたって

ア. 生徒の実態

平成 25 年度のグループは、1 年生 1 名、2 年生 1 名、3 年生 2 名の 4 名で構成されている。自転車整備にはとても興味を持って整備に積極的な生徒から、工具の使い方や、作業手順もなかなか覚えられない生徒まで様々である。整備の内容によっては、一人で整備することが難しく、複数での作業が必要な場面もあるが、友だちへの声かけがなかったり、声が小さく伝わらない様子も見られる。

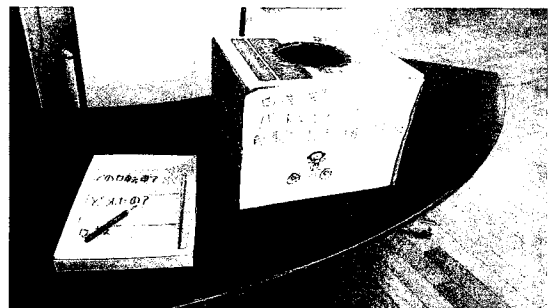
イ. 指導にあたって

本年度の取り組みは基本的には昨年度を踏襲するものであり、以下の 3 点に重きを置いて取り組んだ。

- ・友だち同士の協力を促す
- ・授業のめあての設定と評価を生徒自身で行う
- ・生徒の自転車整備に対する意欲を高める

友だち同士が協力しやすいように、積極性の高い生徒と声かけが必要な生徒を組み合わせたり、昨年度から引き続き同じ自転車作業に取り組んでいる生徒と、今年度、自転車整備作業が初めてで、作業手順に自信のない生徒を組み合わせたりなど、生徒同士の組み合わせを工夫してみた。また、昨年度から引き続き授業のめあてを生徒自身が行い、また、ペアの生徒からも評価してもらう時間を確保した。こうすることで、自己評価が高すぎる生徒はペアの友だちに評価してもらい、修正することができた。その逆に、自己評価の低い生徒はペアの生徒から高評価をもらうことで自信につながるなどの効果があった。

生徒の意欲を高めるために、今年度から、校内の生徒、教師から自転車の修理依頼箱を設置することにした。



校内の玄関に設置された依頼箱

② 指導計画

第一次（1 学期）

自転車整備①

- ・パンク修理、タイヤ交換

第二次（2 学期）

自転車整備②

- ・サイクリング遠足に向けた自転車点検

第三次（3 学期）

自転車整備③

- ・パンク修理、タイヤ交換、チェーンオイル給油、自転車点検

③ 平成 25 年度のまとめ

年間を通して取り組むようになって3年となった。基本的な作業の流れは定着してきたといえるが、少しずつ、生徒の実態や興味関心に合わせて、新たな取り組みも取り入れてきた。今年度から取り組んだ修理依頼箱は、生徒たちにとっては主体的に取り組める動機付けになった。

依頼があった場合は、次回作業日にすぐに整備にかかり、完了後は、依頼した生徒や教師に報告するようになった。その時に依頼された生徒や教師から感謝の気持ちを伝えられると、とてもうれしくて、次の依頼がないか、玄関を通るたびに依頼箱の中をのぞいている。“自分たちが取り組んでいる自転車作業がとても役に立っている。みんなに喜んでもらっている。”という自己有用感につながったと考えられる。

授業のめあての設定と評価を生徒自身で行う取り組みでは、自分の出した自己評価に対して、他者評価が入ることで、作業は自分ひとりで取り組んでいるのではなく、友達と協力して取り組んでいるということの意識付けにもなり、目標設定の場面でも、作業をイメージして目標を立てられるようになってきた。



修理依頼のカード



ペアで協力して作業する生徒

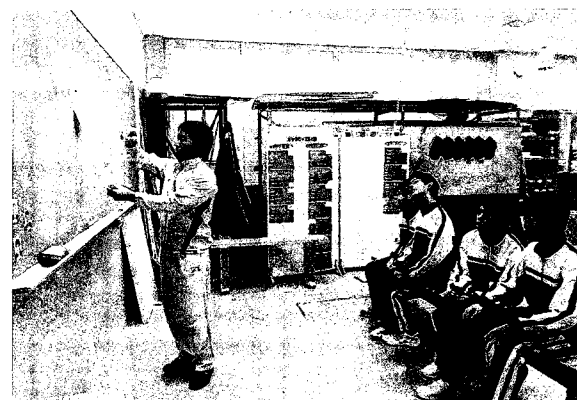
(5) 3年間の取り組みを振り返って

① 考察

自転車整備という作業において、作業技術を身につけることや、持続力などに重点を置くのではなく、特に「友だちとの協力」と「自分たちで作業を進める」ことを大切にして、授業作りを行った。また作業の随所に「自己選択」や「自己決定」「自己評価」をする場面を確保するようにした。

その中での教師の役割として浮かび上がってきたのは、以下の点である。

- ・無理なく自然に友だちと仕事を分担したり、力を合わせたりできる作業工程の設定
- ・一人一人の特性や得意分野を活かし、組み合わせることでより効果が上がるグループ編制の工夫
- ・生徒が自ら作業を進行していけるような教具や環境の準備
- ・生徒が自分のめあてを意識し、自分の取り組みを振り返ることができる場の設定と適切な支援



作業後にめあてに対して評価する生徒

② 生徒の変容

授業の終わりに自分の作業の様子を振り返り、次の時間のめあてを立てる過程は、将来、生徒が自分自身の生活を振り返り、新たな生活目標を立てるようになるための学習ステップにもなると考え、毎時間、大切に取り組んできた。自分の言葉での自己評価やねらいの設定がまだ難しいと思われる生徒についても、ペアで組んだ友だちに評価をしてもらったり、教師がそれぞれの学習段階において最適と思われるめあてを提示したりすることを繰り返したところ、学級に戻ってから、そのめあてを身振りを交えて周囲に伝えるなど、はっきりとめあてや評価を意識する様子が見られるようになった。

(6) まとめと課題

この実践は、将来、生徒が自転車の整備士になることなどを目指しているわけではない。自転車整備を通して、友だち同士の協力や成功体験を増やすことで、協力する態度をはぐくみ、また、“人の役に立っている。社会のためになっている。”と感じることで、自己有用感、自己肯定感、成就感も育まれることになり、これらの取り組みの蓄積が、キャリア発達支援につながるのではないかと考える。

現在は、校内の自転車整備や教師の個人所有の自転車整備にとどまっているが、今後はこの自転車整備作業を地域に広げていくことで、さらに生徒たちの意識も高まると同時に、地域理解も深まると思われる。ただし、自転車は軽車両であるため、安全にも配慮することが不可欠であり、そのためには自転車整備に対する技術的な目標も設定していく必要があると考える。

4. 実践Ⅲ 地域資源を活用して働く気持ちを引き出す取り組み

～ 中学部 3 年 生活単元学習「中 3 カフェをひらこう！」～

実践において大事にした視点

この実践は、キャリア教育の視点の中で“「働く」ことに意欲を持つ”ことをめざし、以下の点を大切にして取り組んだものである。

- ・ 学習を体験活動（就業体験）につなげる
- ・ 地域の人との関わりを活用する
- ・ 友だちの発表や実技などを参考に、生徒自身が目標設定や振り返りを行う

(1) はじめに

① 生徒の実態

3 年生は、男子 3 名、女子 3 名の 6 名で構成されている。自分で考えたり意見を述べたりできる生徒や、理解力があり手先は器用であるが人前で挨拶や笑顔を見せることが難しい生徒、いろいろなことに挑戦してみたい気持ちを持っているが自信がなくなかなか行動に移せない生徒、単語や簡単な言葉で気持ちを伝えられる生徒などその実態は様々である。しかし、声を掛け合ったり協力したりしながら、みんなで一緒に活動できる学級集団である。

また、中学部 3 年生は、夏に初めての校外での就業体験（チャレンジワーク）を行うが、年度当初「働くこと」や「いろいろな職業」についての具体的なイメージを持っている生徒は少なかった。

② 単元設定の理由

生活単元学習の授業で「野菜を育てて調理しよう」という学習に取り組んだ。作ってみたい料理の意見を出し合ったところ、「ハーブティーを飲んでみたい！」や「ミートソーススパゲッティを作って食べたい！」という意見が聞かれた。そこで、教科書などを参考に、ハーブティーに使う「カモミール」「ミント」とミートソースに使う「トマト」を作ることになった。作った料理を自分たちでおいしく食べることはもちろん、夏にチャレンジワークを控えている生徒の「働く体験」につなげたいと考え「中 3 カフェを開いて、みんなに料理を出して喜んでもらったらどうか」と教師が提案した。教師が「働く体験」につながるとして「中 3 カフェ」を提案した理由は、「働くこと」や「いろいろな職業」の具体的なイメージを持っている生徒は少なかったが、家族との外食やファストフード店等の利用を通して、「接客」や「店員さん」の仕事に関しては、イメージや興味を持てる生徒が多かったからである。また、チャレンジワークに不安を持つ生徒もいたが、それらの生徒にとって、この活動をすることで自信を持ってチャレンジワークに取り組むことができると考えた。カフェを開いて「店員さんの仕事」をやってみることを提案したところ、生徒からは「おもしろそう！」「やってみたい」という意欲的な意見が聞かれたため本単元を設定した。

③ 指導の観点と期待される効果

本単元では、地域のカフェへ実際に出かけて「お客さん」として接客や調理について話を聴いたり、地域の飲食店の店長さんに外部講師として来校していただき、接客の方法や大切さについて実践的に学習したりすることにした。そして、実際に「中3カフェ」を開いて、自分たちが学んだ「接客」を実践することをめざした。

それらの接客に関する体験を通して、以下の効果が期待されると考えた。

- ・接客のマナーやスキルを知ること
- ・挨拶や言葉遣い、衛生に留意する活動を通して、相手の気持ちを考えて行動すること
- ・「おいしい」や「ありがとう」などの言葉を受けて、人に喜んでもらう嬉しさを感じることに
- ・人に喜んでもらうことで、仕事への楽しさや興味、関心を持つこと

上記の効果が、夏に行われるチャレンジワークの取り組みへと繋がるのではないかと考えた。

(2) 取り組みの概要

① 目標


- ・接客の活動に意欲的に取り組む 【関心・意欲・態度】
- ・相手に喜んでもらう嬉しさを知る 【関心・意欲・態度】
- ・衛生面やお客さんの気持ちを考えて行動できる 【思考・判断・表現】
- ・接客のマナーやスキルを知る 【知識・理解】

② 指導計画 (総時数 16時)


第一次	カフェってどんなところ？	・・・	1時
第二次	カフェに行ってみよう！	・・・	6時
第三次	中3カフェの準備をしよう！	・・・	4時
第四次	中3カフェをしよう！	・・・	4時
第五次	中3カフェの振り返りをしよう！	・・・	1時

③ 主な学習活動




ア. カフェの始まりは

生徒の思いと主な学習活動	教師の手だて
<p>●野菜を育てて調理しよう</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ハーブティー飲んでみたいな！</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ミートソーススパゲッティ食べたいな！</p> <p>●テラスでカモミールとミントを育てよう 畑でトマトを育てよう</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">カフェの提案</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">おもしろそう！</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">やってみたい！</p>	<p>自分たちでカフェを開いて、みんなを招待したらどうかを提案し、話し合う場面を設定する (夏に控えているチャレンジワークに繋げるため身近な『接客』を糸口にすすめたらどうかということから、カフェを提案することとした)</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;">中3カフェ やってみない？</p> 

イ. 第一次 「カフェってどんなところ？」

生徒の思いと主な学習活動	教師の手だて
<p>●カフェってどんなところか考えよう</p> <p>カフェ？スターバックスみたいなところ？コーヒー飲むところ？</p> <p>行ったことないかも！</p> <p>カフェに行ってみる提案</p> <p>楽しみ、どんなところか早く行ってみたい！</p>	<p>カフェのイメージを生徒たちに分かりやすく伝える</p> <p>↓</p> <p>具体的なイメージが持てるように、実際に近くのカフェに行ってみることを提案する</p> <p>カフェに行ってみようか！</p> 

ウ. 第二次 「カフェに行ってみよう！」

生徒の思いと主な学習活動	教師の手だて
<p>●地域で、おいしいハーブティーを出してくれる、おしゃれなカフェへ、調べ学習に出かける</p> <p>・今日の目標を確認する</p> <p>ハーブティーどんな味がするのかな？</p> <p>お店の中はどんな飾りつけなの？</p>  <p>初めてのカフェ 楽しみだね</p>  <p>香りがとってもいいね</p> <p>メニューやカップもきれいだね</p> <p>飲みやすいハーブティーの作り方教えてください</p>	<p>教師があらかじめおしゃれなカフェを選んでおく</p> <p>事前学習</p> <p>店の飾りつけやハーブティーの味、店員さんの言葉遣いや振る舞いなどに着眼できるようなワークシートを準備する</p> <p>名前() 月() 日()</p> <p>カフェに行ってみよう！①</p> <p>1 お店の中はどんな感じ？(カップやお皿も)</p> <p>2 店員さんの話しかたは？</p> <p>3 お客様と接するときに気をつけることは？</p> <p>4 ハーブティーのおいしい入れかたは？</p> <p>カフェでは</p> <p>お店の中はどんな飾りつけになっているか、店員さんの振る舞いはどうか意識が向けられるよう声かけをする</p> <p>お店の雰囲気や店員さんの話し方どう？</p> 

- 今日の振り返りをする（調べたことを発表する）



カフェっておしゃれなところだったね

ハーブティーいい香りだったね

- 地域でおいしいミートソーススパゲッティを出してくれるカフェへ、調べ学習に出かける

- 今日の目標を確認する

おいしく作るにはどうしたらいいのかな？



スパゲッティおいしかったね
お客さんの気持ちを考えて作ることが大切なんだね

- 今日の振り返りをする（調べたことを発表する）



試し作りの提案

やってみよう！

事後学習

教えてもらったことや見てきたことを振り返り、ワークシートに記入しながら確認できるようにする

友だちの発表を聞くことで、自分が気付かなかった点についても気付けるようにする



教師がミートソーススパゲッティを作っているカフェを選んでおく

事前学習

ミートソーススパゲッティのおいしい作り方、店員さんの言葉遣いや振る舞いなどに着眼できるようなワークシートを準備する

名前（ ） 月 日（ ）

カフェに行って調べよう！②

- 1 店員さんの話しかたは？ 
- 2 お客さんと接するとき気をつけることは？
- 3 料理を作るとき気をつけることは？
- 4 ミートソーススパゲッティのおいしい作りかたは？ 

事後学習

発表を聞くことで、大切なことをみんなが確認できるようにする

調べ学習を参考に、おいしく作ることができるか、試し作りの提案をする

エ. 第三次 「中3カフェの準備をしよう！」

生徒の思いと主な学習活動

● 試し作りをする



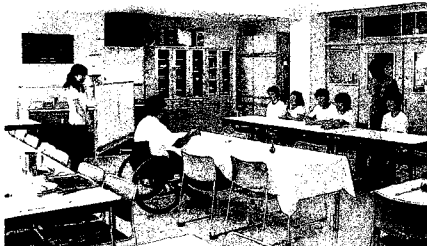
うまく作れるかな？

お客さんの気持ちを考えて！

おいしくできるといいな

● 『接客』について学ぶ

- ・『接客』について、地域の飲食店の店長さんから話を聴く（地域との連携）



・えがぁ😊
 ・おみぎなこえ😊
 ・クおみみる
 「どうも さちらん」😊



笑顔って難しいな
でも、やってみよう

笑顔や挨拶は苦手
だけど、実技はぼ
くにやらせて！

笑顔や大きな声で丁寧に話すこと、相手の顔を見ることの大切さなど学んだよ
グラスやフォーク、お皿などの持ち方や出し方、置き方についても学んだよ

教師の手だて

カフェで教えてもらったことを振り返り、確認してから、試し作りを行うようにする

パスタの茹で加減や調味料の加える分量など、作り方の提示や助言をする

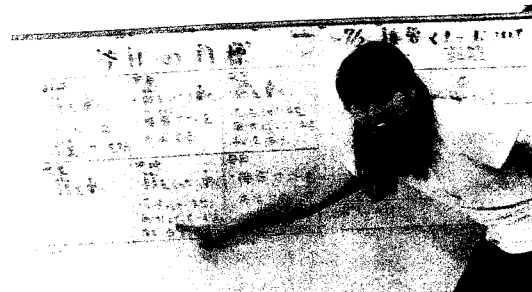


食べる人の気持ちを考えて
作ろうね！
パスタの茹で加減は～
調味料は～

生徒にとって、より良い授業内容にするために、生徒の実態や授業の趣旨などについて、事前に店長さんと打ち合わせを行う

事前学習

各自の本時の目標を確認して、店長さんの授業に臨むようにする

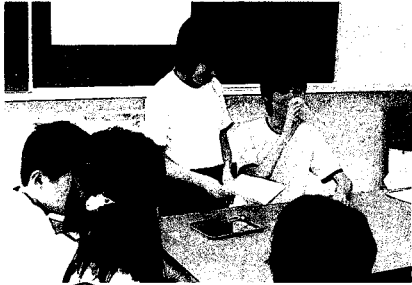


店長さんの話を聞きながら、必要に応じて、その都度、大切なポイントについての確認を行っていく

『接客』には、
笑顔がすごく
大事とおっし
やっているよ



- ・今日の振り返りをする



話し方やメニューの出し方、グラスの持ち方など、なかなかうまくできないよ

もう少し笑顔の方がいいね

- ・振り返り後の様子



鏡を見て練習しよう！



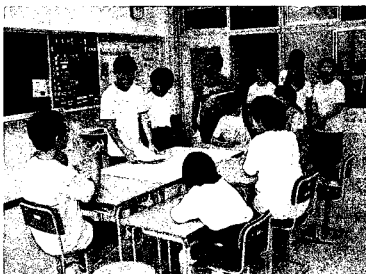
「接客」上手になりたいから
昼休み時間、お客さん役
お願いします

- メニュー、招待状を作る



〇〇さん、□□
先生、来てくれ
るかな？

- 招待状を各クラスや先生方に持って行く



みんな来て
欲しいな

事後学習

友だちの接客の仕方をよく見て、店長さんに学んだことをもとに、良い点、見直す点など話し合う場面を設ける

笑顔や相手の気持ちを考えて接客することで、お客さんに喜んでもらえるということについて確認する

事後学習の後は

「接客」について
お客さんの気持ちを
考え、自分から
昼休み時間を利用
して取り組むよう
になったね



見る人にわかりやすく作るように伝える

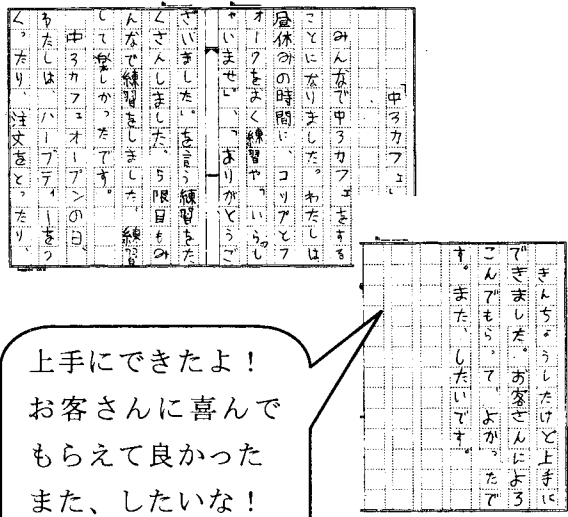
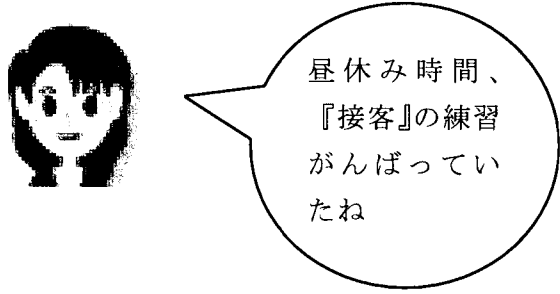
みんなが聞き取れるように、分かりやすく大きな声で話す練習を事前に行う

丁寧な言葉遣いで話すことを確認する

オ. 第四次 「中3カフェをしよう！」

生徒の思いと主な学習活動	教師の手だて
<p>●カフェ当日</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の目標を確認する  <p>大きな声で挨拶！</p> <p>笑顔だね</p> お店の飾り付けをする   ハーブティー、ミートソーススパゲッティの準備をする   カフェオープン  <p>お冷や、どうぞ！</p> <p>ミートソーススパゲッティ、どうぞ！</p>  <p>ご注文は何になさいますか</p>  <p>ハーブティーです どうぞ</p>  <p>ありがとうございました！</p> 	<p>店長さんに学んだことやカフェに行つて学んだことをみんなで確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> 笑顔 大きな声で挨拶する お客さん顔を見る お客さんのことを考えて調理する 相手の気持ちを考えた接客をする など <p>お店の看板作りやテーブルの配置、飾りつけなど、みんなで協力して取り組むようにする</p> <p>ハーブティーやミートソースの下準備に、それぞれ分担して取り組むようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> 笑顔で接客しているか 「いらっしゃいませ」や「ありがとうございました」がしっかりと言えたか 注文の取り方はどうか お皿やフォークの置き方はどうか コップの持ち方はどうか お客さんのことを考えた行動をしているか お客さんのことを考えて調理しているかなどについて、振り返られるような声かけをその都度する <div data-bbox="799 1668 1207 2004" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content;"> <p>挨拶がちゃんとできているかな？ お客さんの気持ちを考えているかな？</p> </div> 

カ. 第五次 「中3カフェの振り返りをしよう！」

生徒の思いと主な学習活動	教師の手だて
<p>● 作文を書いて、カフェの振り返りをする</p>  <p>上手にできたよ！ お客さんに喜んで もらえて良かった また、したいな！</p>	<p>『接客』について、写真を準備し提示することで、スムーズに振り返ることができるようにする</p> <p>カフェの取り組みの様子について、生徒と話し合う</p>  <p>昼休み時間、 『接客』の練習 がんばっていたね</p>

④ 生徒の様子および変容

ア. 地域のカフェ体験を通して

当初「カフェ」の具体的なイメージをもっている生徒は少なかった。しかし、実際にカフェへ行ってお店を見たり体験したりすることで、「お店の中がおしゃれですてきだね」や「ハーブティーとってもおいしいね」とカフェへの感想やイメージを個々に持ちはじめ、「自分たちもやってみよう！」という気持ちを持つようになった。カフェの準備をする際にも、お店の内装を参考に「お花を飾りたい！」や「わかりやすいメニュー表を作ろう！」「おしゃれなカップを用意したいね！」と、自分たちで考えて意見を出しながら準備に取り組む様子が見られた。また、ワークシートを基に生徒たちが店員さんへの質問を考え、おいしく作るために大切なことやコツを自ら質問した。店員さんに教えられたことは、教師が生徒に伝える以上に生徒の心に伝わり、ハーブティーやミートソーススパゲッティを作る際は、「お客さんに喜んでもらおう！」という気持ちを持ってハーブティーの温度や茶葉の量に留意しながら、調理活動に取り組む生徒の様子が見られた。

イ. 地域の店長さんからの「接客」の講話を通して

外部講師の店長さんは、接客の言葉遣いや振る舞いについて実演を交えながら話をされ、生徒は興味深く話を聴く様子が見られた。店長さんは、「笑顔」と「挨拶」の大切さを伝え、生徒は休み時間などに鏡を見ながら笑顔の練習をする様子が見られた。当初は、笑顔で人と話すことが少なかったり、挨拶を大きな声で言うことが難しかったりする生徒が多かったが、店長さんの話を受けて、それらに十分留意し、「笑顔」とはっきりとした「挨拶」を意識することができた。

また、接客時にコップの口をつける場所を持たないことやフォークの置き方、注文の取り方等、生徒が経験したことがないことについても、実演を交えながらの説明を聴き、その後、生徒

が交替で実際に店員の役になって意欲的に接客の練習に取り組んだ。講師の方の授業のあと、「カフェで上手に接客したい！」という思いから、自ら休み時間にいろいろな先生にお客さんになってもらって、積極的に接客の練習をする様子が見られた。

ウ. 中3カフェ当日の生徒の様子

各々緊張しながらも接客の学習をしたことを活かし、笑顔で「いらっしやいませ」「ありがとうございました」等、元気に挨拶をする姿が見られ、丁寧な言葉で話そうという意識が感じられた。衛生面でも、手洗いを丁寧にし、食器の持ち方に配慮する行動が見られた。接客のこと以外でも、自らパスタが焦げないように適宜ミートソースを混ぜたり、お冷を入れる役割に取り組んだりする様子も見られた。地域のカフェの店員さんに聞いたように、「お客さんにおいしく食べてもらおう！」という気持ちを持ち、その言葉を発しながらスパゲッティを調理する生徒もいた。また、「ハーブティーに紅茶を混ぜると飲みやすくなる」という以前受けたアドバイスを意識し、ハーブティーの温度や葉の量に充分に気をつけながら作る生徒もいた。

(3) 成果と課題

① 成果

ア. 地域の方との関わりを通しての効果

本単元では、地域のカフェへ実際に出かけてお店を体験したり、店員の方に質問をしたりした。「カフェ」について具体的なイメージを持っていない生徒も多かったが、実際に体験することで「カフェ」がどのような場所か理解し、「私たちもやってみたい！」という意欲につながっていった。

また、「笑顔で挨拶をしたら、お客さんがいい気持ちになれるよ」や「お客さんの気持ちを考えて、調理をしよう」などの実際に働いている方のアドバイスは、生徒の言動にも表れるようになり、教師が伝える以上にダイレクトに生徒に届いていることを改めて実感できた。

生徒が地域のカフェへ出かけるだけでなく、飲食店の店長さんに外部講師として学校へ来て頂き、「接客」のマナーやスキルについて教えて頂く機会も設けた。その際は、「挨拶」や「接客」の大切さや方法について講話だけでなく実演も行ってくださり、より分かりやすく実践的に学ぶことができた。また、店長さんがお客さんになって、生徒が実際に接客の練習をした際は、店長さんから直接意見やアドバイスを頂くことができたので、生徒の接客への理解や意欲の向上に大きくつながった。

イ. 中3カフェの活動を通しての効果

中3カフェを終えた後、「喜んでくれて嬉しかった！」や「〇〇さんが喜んでくれたから、今度は□□先生を招待したい！」などの意見が生徒から聞かれた。また、カフェのあとの給食で、お客さんとして来客した教師に「どうでしたか？」とスパゲッティを一生懸命作っていた生徒自ら尋ね、「おいしかったよ」という返事に対し「ありがとうございました」とにこやかな表情で言葉を返す様子も見られた。生徒は、自分がしたことにより人が喜ぶ姿を見たり感謝の言葉を受け取ったりすることで、自己有用感や成就感を感じ、「もっとやってみたい！」「今後は～をさらにがんばろう！」と働くことへの喜びや意欲へとつなげることができた。また、上級生が働いている姿を下級生が見ることで、「ぼくたちも先輩達のように接客をやってみよう！」と、後輩の意欲の向上

にもつなげることができた。

ウ. 中3カフェを終えてのチャレンジワークでの生徒の様子

カフェを終えた後、中学部3年生は校外のさまざまな企業や事業所等でチャレンジワークを行った。チャレンジワークに不安を持っていた生徒は、「チャレンジワークで、カフェのお仕事してみたい!」と接客の仕事に興味や意欲を持つようになった。また、スーパーマーケットで就業体験をした生徒は、講話して頂いた店長さんの話を通して「笑顔」の大切さを理解し、お客さんに笑顔で接することが意識できるようになった。また、お客さんに対して自ら挨拶をする様子が見られた。タクシー会社でタクシーの清掃をした生徒は、「お客さんに気持ちよくタクシーに乗ってもらうためにきれいにしよう!」という気持ちを持ちながら、チャレンジワークに取り組むことができた。大きな声で挨拶をすることが苦手な生徒も、お店にお客さんが来るたびに「いらっしゃいませ!」としっかりと声を出して挨拶することができた。この生徒は、学校内でも大きな声で挨拶をすることができるようになった。

これらの様子は、「接客」についての学習を通して、「相手の気持ちを考えて行動したり発言したりする」という意識が少しずつ育まれているからだと考えられる。また、人に喜んでもらうことが、仕事の楽しさや興味、関心につながっていると考えられる。

② 今後の課題

カフェを終えて、お客さんとして来てくれた生徒や教師に、感想や評価をアンケート用紙に記入してもらった。しかし、日程の都合等でそれらを生徒たちに十分に伝えることができなかった。今後は、他者評価をしっかりと振り返ることができるようにしたい。

外部講師として講話をされた地域の店長さんに、当日は仕事の都合でカフェに来て頂くことができなかった。講話で教えて頂いた事（笑顔、挨拶、食器の扱い方、言葉遣い、相手の気持ちを考えた接し方等）が、店長さんから見て本番はどうであったか評価をしていただくことができなかったのは残念であった。教師の視点からだけでなく、実際に接客の仕事をしている方から評価を頂くことは、生徒にとっても有意義であると考えられるので、今後はそのような機会を持てるようにしたい。

5. まとめ

(1) 3つの実践の中から

生徒のキャリア発達を願い、中学部で取り組んできた授業の中で、様々な生徒の成長に気づくことができた。それぞれの実践を振り返り、有効な支援のあり方について以下にまとめた。

① 人との関わりの中で学ぶ

中学部で大切にされている学習指導の観点の中で、この3つの実践に共通しているものとして、“人との関わりの中で学ぶこと”があげられる。実際に現場で働く、カフェや飲食店の店員に話を聞くという、新鮮でダイレクトな学びの場〔実践Ⅲ〕はもちろん、共に作業をする友だちからの忌憚のない評価〔実践Ⅱ〕や、自分が作った料理をおいしそうにほおぼる友だちや招待客の笑顔〔実践Ⅰ〕などは、どれも、生徒の心に強く働きかける力を持っている。

さらに、学年集団や学習グループの枠を超えた、学部集団でのダイナミックな活動では、しばしば生徒たちの目覚ましい変化が見られることがある。実践Ⅰでは、教師の指示を待つ場面が多かった生徒が、重い机を必死に運ぶ友だちの姿を見て、自分から駆け寄って手伝ったり、普段は声が小さい生徒が、大勢の人の中で懸命に司会を務める様子が見られた。実践Ⅱでは、学部をあげての行事「サイクリング遠足」の成功を願い、40台もの自転車の整備に根気良く取り組む生徒の姿が見られた。実践Ⅲでは、学部全員をお客様として招くことを楽しみに、休み時間にまで接客の練習を繰り返す生徒もいた。このような集団の学習効果を引き出すためには、集団の力のみに任せるのではなく、教師が意図的に生徒の気づきを促すような声かけをしたり、生徒が必要を感じて頑張ろうとするような状況の設定を行うことが大切であると考えられる。



いもにまつりでの机運搬

② 自分で目標設定と評価を行う

生徒が主体性をもって学習に臨み、さらなる意欲を持って取り組んでいくためには、自分で目標を持ち、学習後に振り返る過程が大切であることが、いずれの実践でも確認できた。この学習の流れが有効に働くためには、生徒がその時点での具体的で的確な目標と、妥当な評価を導き出せるような教師の示唆が大切であると思われる。実践Ⅰで述べられているように、自分の言葉での目標設定や振り返りが難しい生徒への支援のあり方については、この数年来、大きな課題として挙げられている。加えて、昨年度からのキャリア教育の視点からの取り組みの中で、言葉でのコミュニケーションが可能な生徒であっても、自分や友だちに対する評価が的確に言い表せない場合が多いことが、様々な場面で指摘されてきた。生徒たちが将来「自分で考えて自分で行動する」ことを目指す際、“自分の気持ちを言語化し、整理する”過程は非常に重要となる。我々は、生徒の表現する力を伸ばすことを常に心がけ、場面を捉えて生徒の語彙を増やす働きかけをしたり、周囲への意識を促すことを通して、自己をより明確に意識できるようにしていきたい。

(2) 今後に向けて

① 家庭生活の充実を願って

中学部でキャリア発達の支援をはかる際、現在の、そして将来も含めて生活の基盤となる“「家庭」での生活の充実”を外して考えることはできない。衣食住を柱とする日々の生活に、できるだけ自分の力で主体的に取り組むために、日常生活の指導は重要である。本校では小・中・高すべての学部が「日常生活訓練施設（すずかけの家）」での宿泊学習を行っている。宿泊学習では、日頃の学校生活の範囲では見ることのできない生徒のADL項目の様子に実際に接し、指導できる貴重な機会である。しかし、主に夏休み中の行事となることからクラスのレクリエーション活動的な要素が強くなったり、各年度で申し送りが十分にできずに、系統的な学習の積み上げがなされにくいという反省が挙げられていた。そこで、中学部では今年度より、宿泊学習での各生徒の様子を「洗顔」「寝具の準備」などの具体的な項目に分けて詳しく記録し、次年度および高等部に申し送ることとした。また、合宿の場面では、家庭とは違った生徒たちの自律的な行動が見られることがしばしばあるので、これらの情報を保護者にも伝え、共有していきたいと考えている。

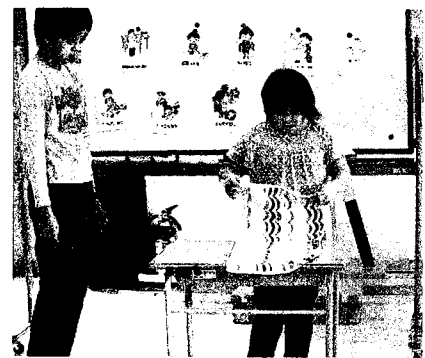


宿泊学習でのお風呂掃除

中学部では今年度より「職業・家庭」を教科として新設したことを受け、「家庭科」における指導項目と指導の観点について検討を行った。その中で確認されたことの一部を以下に記す。

- ・（雑巾を）しぼる、（エプロンの紐を）結ぶなどの生活動作の獲得は中学部時期までに行うことが望ましい。ただし、その項目のみを抽出して取り組むのではなく、「調理前に机をふきんで拭こう。」「調理で使ったエプロンが汚れたから洗濯をしよう。」というように生徒の学校生活の自然な流れの中で指導していくことが大切である。
- ・将来に向け、身だしなみやマナー、TPO・季節に応じた服の選択などの学習は必要であり、できれば自分で服を選べるようにしたい。中学部では金曜日を「自由服の日」としているので、その意味を折に触れて生徒に伝え、意識して指導していくようにしたい。
- ・ズックの紐結び、ハンガーかけ等の指導では、生徒自身が必要性を感じられることが望ましい。練習法の工夫も必要な場合もあるが、「できた」という本人の喜びを大切に指導したい。

自分なりの役割を担い、社会人として生きていくことが望まれる生徒たちにとって、まず、自分の役割を果たすべき最初の場面は、それぞれの家庭であろう。また、家庭でのお手伝いは、将来の「労働」への出発点にある活動であると考えられる。そこで中学部では、今年度の夏休みの取り組みとして、保護者向けに「お手伝い」の意義を説明した上で、保護者と生徒で話し合ってお手伝いの内容を決めてもらうこととした。そして、毎日のお手伝いの記録をつけるとともに、保護者からの、生徒の取り組みの様子や評価についての意見を集約した。その中で、毎日の継続が着実に生徒の力となることや、家族に感謝される経験が、生徒の家庭における自己有用感を育てていくことが確認された。



学部集会でのお手伝いの発表会

この取り組みは夏休みが終わっても継続され、各学級の朝の会で、生徒が自分のお手伝いの様子を毎日振り返り、「お手伝い一覧表」に記入する姿が見られている。

② 地域とのつながりを大切に

本校では、昨年度より『地域の人的資源を活用する取り組み』を行っており、中学部では実践Ⅲで紹介した飲食店店長の他に、ハンバーガーチェーン店のマネージャーを招き、講話を実施した。その話の中でも繰り返し述べられたポイント「挨拶」「笑顔」は、生徒の心に浸透し、その後に行われた販売活動“ミニバザー”での生徒の接客でも生かされていた。

そこで、今年度は講話で学んだことを生徒の学校生活や家庭生活につなげていくことを意識し、いしかわ動物園の飼育員と、人気ラーメン店の店長を招いて講話を実施した。飼育委員の生徒は、日々愛情を持って動物に接する飼育員の話に熱心に聞き、以前よりも自発的に、かつ丁寧に飼育動物の世話をするようになっていった。また、ラーメン店店長の見事な包丁さばきや、実演で作っていただいためった汁の味に感嘆した生徒は、学部全体での行事「めった汁まつり」での調理への意欲をさらに高めていた。

昨年度行った取り組みに対しては、外部講師との学習が講話の一回のみで終わったことへの反省が挙げられていた。その反省を受け、今年度は、学びの場を継続できるように実践を進めた。動物園の飼育員には、講話についての質問カードを送って返事をいただいたり、動物園のイベントの案内をいただいたりした。ラーメン店店長には、講話後の「めった汁まつり」に招待して、実地で調理についての評価とアドバイスをいただいた。このような取り組みの継続により、講師の方とのつながりがより強いものとなり、学習の深まりも見られた。

今年10月、本校の校門前を通過していたある高校生の自転車のチェーンが壊れて、こげなくなった。実践Ⅱの自転車整備班の生徒が修理にあたり、無事高校生に渡すことができ、とても感謝された。このような偶然の出来事も、学習活動を地域へとつなげる第一歩となることを期待している。



ハンバーガー店マネージャーの講話



校外の人の自転車の修理

【参考文献】

1. 金沢大学附属特別支援学校(2011) 「研究紀要 平成23年度」
2. 金沢大学附属特別支援学校(2012) 「研究紀要 平成24年度」